

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：川幅2倍！自然はそのまま！地域とともに歩んだ川づくり		
水系／河川名：二級河川安家川水系安家川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：224.1	整備計画流量：800m ³ /s	セグメント：M
事業：災害復旧	事業開始年度：平成28年度	
目標設定：定量的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：築堤、引堤、掘削(高水敷)、掘削(低水路)、掘削(河床)、護岸整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、施工管理、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

安家川は、岩手県岩泉町の北部に位置し、安家地区の集落の中心を貫流する河川で、従来から町民の生活に密接に関連する河川であった。

平成28年の台風第10号による豪雨により、日蔭水位観測所において、現況河岸高(3.45m)を大きく上回る水位(5.25m)を記録する洪水が発生し、流域全体で浸水被害等甚大な被害を受けた。

このことから、河川災害復旧等関連緊急事業及び河川等災害関連事業を導入し、河道拡幅や河床掘削により河積を拡大し、洪水被害の防止を図った。

<課題>

河川改修により従前の川幅(20～30m)が倍の約50mとなることから、環境や町民の暮らしへの影響が大きいこと。

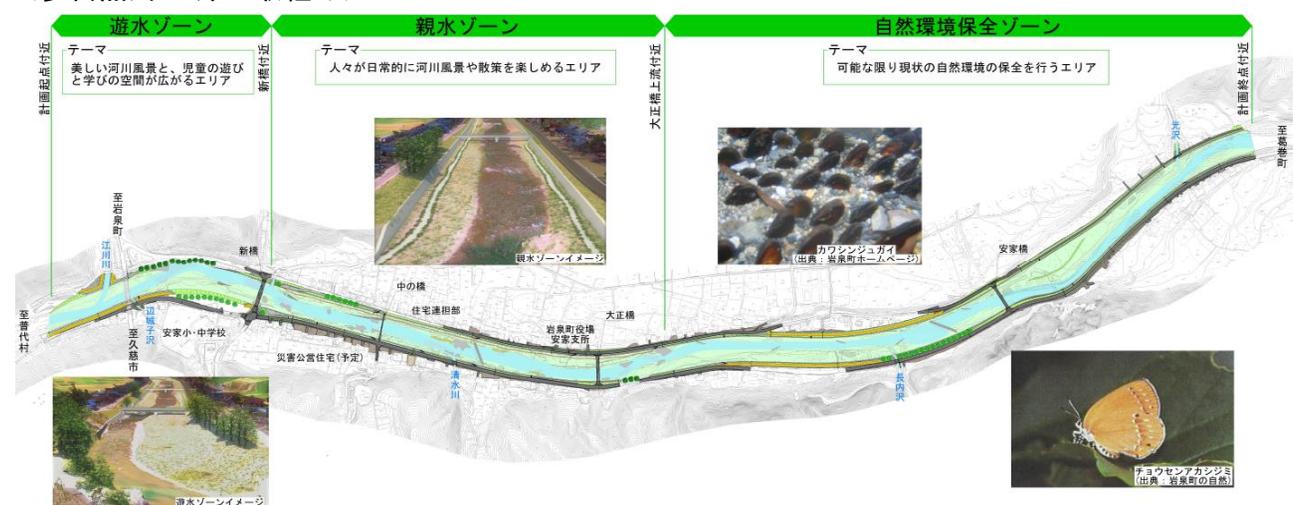
<目標>

安家川が元々有する豊かな自然環境や河川風景、また人々と安家川との古くからの関わり等に配慮してゾーニングを行う。

「現在の良好な河岸・水際部や濠筋は保全する」、「河畔林を保全する」、「川の連続性を確保する」ことを基本とし、新たに「水生生物の生息環境」、「人々が触れ合い安らぐ空間」、「児童の遊びと学びの空間」を創出することを目指す。

取り組み内容・対策例(1/2)

<多自然川づくりの取組み>



多自然川づくりを実施するにあたり、全体的なコンセプトを定め、河川をゾーニングし、ゾーンごとにテーマ決めて川づくりの計画を立てました。

多自然川づくりの基本方針の策定にあたっては、環境、商工、消防、防災、学識者、多自然川づくりアドバイザーの方々と協議会を設立し、計画を諮りました。

取り組み内容・対策例 (2/2)

<重要種への配慮>

○カワシンジュガイ

岩泉町の天然記念物に指定されているカワシンジュガイの移植を、安家小中学校の生徒と一緒にしました。安家小中学校では発災前は環境学習の一環でカワシンジュガイ等の生体調査を行っており、今後も引き続き安家川に親しみを持ってもらえるようにと考え、共同作業を実施しました。共同作業時には310個体、その後の追加調査で74個体、計384個体を捕獲し移植しました。



カワシンジュガイの移

○チョウセンアカシジミ

岩手県、山形県、新潟県の一部にのみ生息する重要種で、工事前の環境調査では、安家川事業箇所全体にチョウセンアカシジミの生息が確認されていました。河道拡幅により河岸の食樹となるデワトリネコを伐採してしまうことから、伐採前にチョウセンアカシジミの卵の移植を行いました。河岸のデワトリネコの保全にも努めましたが、全体数が減となることから、護岸と道路の間のスペースに植樹を行い、食樹を増やす取り組みを行いました。



チョウセンアカシジミの卵の移植

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針



整備直後 (R2.3)



約1年半後 (R3.8)



半年後 (R2.8)



現在 (R5.8)

整備後は、滞筋が固定され固いイメージがありましたが、何度かの出水により滞筋も安定し、自然な滞筋となりました。自然の落差工の造成を狙った箇所がうまくいっています。緑も見えるようになり、魚類もこの箇所には戻ってきています。また、サクラマス産卵床が確認されています。

備考